「志望理由」
言える人、言えない人の違いとは？

※３年生は、５月に伝えた以下の内容を再度確認して下さい。

進路通信　題字:山口那々実

業学一体

for all(1・2・3)

進学(推薦)でも
就職(斡旋)でも

再構成

推薦者、斡旋者は「学校を代表する人物」のことです。
学校に関わる全ての人が「ふさわしい」と納得できる人物のことを指します。
（先生方はもちろん、周りにいる生徒全て）

救いは人間の[意図的な善行や努力]に左右されるものではない
救われる証明とは、人間の[正直な信仰そのもの]である
救われる者ならば[信仰は当然]であり、
救われる者になるために[信仰を必要とする]のではない
（【予定説】カルヴァン(仏)）

⇓　⇓

推薦・斡旋は生徒の[**打算的な善行や努力**]で決定するものではない
推薦・斡旋される証明とは、生徒の[**正直な(裏表(うらおもて)のない)生活そのもの**]である
推薦・斡旋される者ならば[**生活に努力・正しさがあるのは当然**]であり、
推薦・斡旋される者になるために[努力・正しさのある生活を必要とする]のではない

例えば、推薦・斡旋されたいから勉強をする(努力をする)⇒されないから努力も正しさも必要ない？
例えば、推薦・斡旋されたいから校則を守る(正しくする)⇒されたので適当に振る舞ってもいい？

⟹ 打算的な人物に**通用する能力**なし！なぜなら、進学、就職先で実直な生活が続かない
（※「一般受験」でも「推薦受験」でも、「斡旋」でも「自己開拓」でも進学・就職後**「求められる根本」**は変わらない）
⟹ 打算なき人物に**本当の実力**あり！なぜなら、進学、就職先で**当たり前に実直な生活ができる**

他者が見ていないからこそ"自分を律すること"が出来る、それが真の大人。
自分のことは自分で救いたまえ。

※今回は過去の推薦者の言葉を載せておきます

【道内私立大学】

私は指定校推薦の枠に選ばれることができた。だが、その一方で、同じ学校の推薦枠を希望していた子を、言い方は悪いが蹴落とすことになってしまった。その子が希望していた推薦枠を得た私は、その分責任を持って「客観的に推薦にふさわしい人物」にならなければならない。

10月に入ってから小論文と面接の練習をしているが、まだまだ足りていないと感じている。これからもっと努力し、推薦された者としてふさわしい振る舞いをするように心がける。

【道外国公立大学】

10月の頭から本格的に事前課題を書き始めた。最初はただ「入学したい理由」や「今まで何をしてきたか？」などを並べているだけの作文だった。

何回も訂正されるうちに「自分がその大学で何をしたいのか？」「本当にその大学に行きたいのか？」ということを自分の言葉で表現できていないことに気がついた。

その後、自分のことを客観的に見直すことによって、自分の信念に添った納得のいく事前課題を提出することができ、面接の時の自信にもつながった。